

健康医療スポーツ学部 柔道整復学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、それぞれの特色を活かした教育を行っています。とくに本学科では、医療とスポーツの両面から実践力を高める教育に力を入れ、資格取得と臨床・現場対応力の両立を目指しています。

【教育方法】

本学科では、「現場で活躍できる力」を養うことを重視し、実践的な知識と技術を段階的に学べる教育を行っています。専門科目では、柔道整復理論（知識）と柔道整復実技（技術）を連動させることで理解を深め、臨床現場を意識した技術習得を行います。さらに、臨床実習を通して実際の患者対応を経験し、卒業後すぐに現場で活躍できる力を身につけます。

また、柔道整復師と保健体育教員のダブルライセンスにより、スポーツ障害に対応できる体育教員の育成にも取り組んでいます。加えて、日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー資格に対応したテーピング実習や応急処置などの実践的授業も行っています。

基礎から臨床まで体系的に学ぶことで、柔道整復師、アスレティックトレーナー、中高の保健体育教員として社会で即戦力となる人材の育成を目指しています。

【教育の特色ある工夫】

- ・ 柔道整復師養成のための学修支援としてチューター制度を導入し、学生が気軽に教員の指導を受けられる環境を整えています。
- ・ 附属施設である帝京市原接骨院において、アーリー・エクスポージャーとして1年次より早期臨床実習を実施し、医療人としての自覚を育み、自主的な学修につなげています。
- ・ 3年次より客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、専門知識に基づいた実技能力を客観的に評価しながら、実践的な技能の向上を図っています。
- ・ 柔道整復の医療技術やスポーツ現場での応急処置について、実技科目において実際の現場を想定した実習を実施し、実践的な技術の習得を目指しています。
- ・ 外傷を想定した応急処置として、包帯やテーピングを用いた固定法を実習し、必要に応じてビデオで実技を記録・確認することで、手順や技術の向上を図っています。
- ・ キャンパス内の広大なスポーツ施設で全国・世界トップレベル選手へのトレーニング指導、外傷予防、外傷時の応急処置など直接触れる機会があり、スポーツに関わる機会が多くあることが特徴です。
- ・ 卒業後は、整形外科や接骨院などの医療機関に加え、介護分野、企業の健康管理部門、スポーツ分野、警察官、中学・高校保健体育教員など多様な進路に対応できるよう就職支援を行っています。